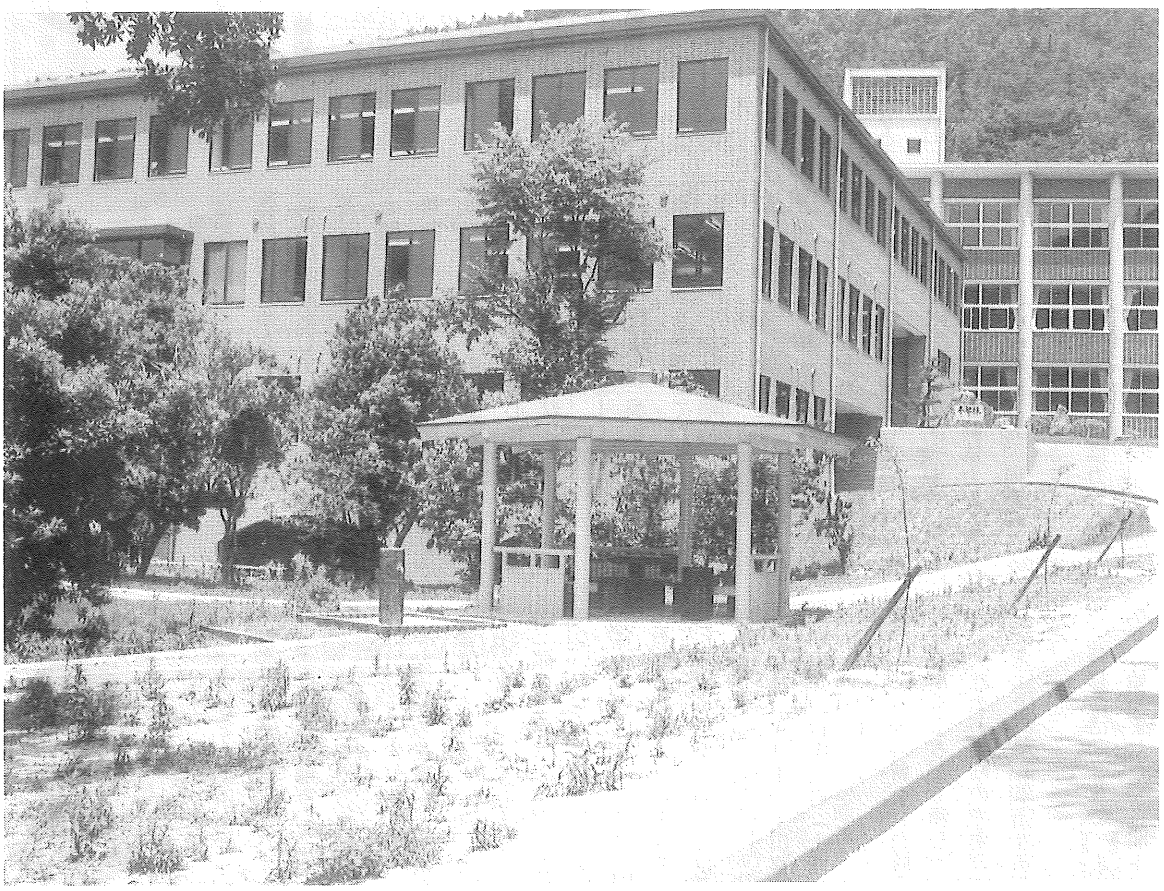
Alma Mater 白陵

第 9 号
平成 2 年 8 月25日発行
発 行 白 陵 会
〒676
高砂市阿弥陀町阿弥陀2260
TEL.0794(47)1675(代)



白陵会総会

来る11月11日(日)開催！

会員のみなさんまだまだ暑い日が続きますが、お元気ですか。今回の会報は第二回白陵会総会のご案内です。

昭和60年、学園から二十回の卒業生が巣立っていったのを機に、第一回総会を開催しました。あれから、もう五年がたちます。

会員のみなさんの中には、卒業以来一度も白陵に足を運ばれたことのない方、また、久しく、母校の校門をくぐられていない方がいらっしゃると思います。なかなか、母校に行く機会がもてないものですが、こんな機会に母校を訪れてみてはいかがですか。

白陵も歴史を刻々と刻んでいます。学園道路の欅並木は大きく伸び、白陵会館や管理棟が白陵の風景をかえ、また、全国屈指の進学校として躍進をつづけ、自然が、風景が、人が、それぞれ白陵の歴史を刻んでいます。

会員のみなさんが共有された「時」が遠ざかっていくのとは逆に、白陵の「時」はどんどん進んでいっています。総会を機会に、発展著しい母校に足を運んでください。久し振りに集う懐かしい顔の中に遠ざかっていた「時」を懐かしく思いだされることと思います。

会長就任にあたって

新会長　沼田好道

お盆も過ぎて、暑い夏も少し和らいできた今日この頃ですが会員の皆様におかれましては、益々御健勝のことと、お慶び申し上げます。

この度、任期満了に伴い黒川前会長が勇退されることになり、白陵会会長を引き継ぐことになりました。黒川前会長には、お忙しいなか白陵会の為にいろいろとお世話くださいまして誠にありがとうございました。今後もまだまだ若い白陵会を今後共宣しく御指導をお願い申し上げます。

故三木園長の七回忌も過ぎ平成二年度の卒業生は故三木園長を知らない生徒達ばかりとなり、何か寂しい思いが致します。白陵高等学校・スパルタ・英才教育・九十分授業・園長・拳骨と連想された時代の卒業生達は、今では広くあらゆる分野で活躍しております。現在卒業生総数も三、九八六名になりました。

さて今年は第二回白陵会総会が11月11日(日)に開催されます。今回の総会では記念講演を予定し、講師には元内閣総理大臣田中角栄氏の元秘書で、現在政治評論家として活躍されている早坂茂三先生をお迎えします。『ベルリンの壁』も一夜にして崩れ、ソ連に大統領制が生まれるなど、世界の構造は大きく変化しつつあります。このような政治経済の動きを中心にした記念講演は有意義であると考えます。

講演終了後は懐かしい恩師、友人達とゆっくり歓談し、ささやかですが簡単な懇親会を準備しております。会長就任のまず初めの仕事が同窓会総会という行事になりましたが、微力ではございますが、精一杯頑張ります。

最後になりましたが、白陵会の益々の発展と同窓生の親睦に最善を尽す所存でございます。これも役員ならびに同窓生の皆様の絶大な御協力がなければどれ一つ成し得ません。何卒若輩な私ですが一生懸命に務めさせて頂きますので宜しく御指導、御協力をお願い申し上げます。

同窓会を振り返って

前会長　黒川芳一

卒業して十数年が経ったある日、同期生の正井和野君がたずねて来ました。三木学園長を囲み、一回生全員を集めて、同窓会をやろうと言うことになりました。

友達から友達へと連絡を取り合い、集まった懐かしい顔、顔、顔、半数以上が集まってくれました。

頭の毛がはえ揃った顔は誰だか分らない奴もいましたし、女性軍は良きおばちゃんに変身（?）。園長先生は、おおいに楽しまれたようです。

それから数か月後、園長先生から電話があり出かけていくと、黒坂康夫前会長（一期生）、上田喜裕副会長（六期生）、下村康夫君（十期生）が集まっておりました。

「これから新たに白陵会同窓会を作るからよろしく頼む」

と突然云われたのです。これは大変だと思ったのが昭和五十五年のことでした。

最初の活動として、まず名簿の作成から始めました。各期生ごとの学年幹事や校内幹事の先生方と、仕事の合間をぬっての電話作戦の開始です。アンチ白陵からは冷たい仕打ちを受けたり、久し振りの便りを喜ぶ友の声があったり、反応はいろいろとありました。

大変な苦労の末、名簿完成時には、役員一同、他校に負けぬすばらしいものだと、感慨無量でした。

その後、昭和六十年に白陵会会長を任かされ、今日まで微力ながら役員の皆様と会務にたずさわってまいりましたが、この度、平成二年六月二十三日の役員会において、会長職を沼田好道君（三期生）にバトンタッチすることになりました。きっと、同窓会に新しい風を吹き込み、力強く前進させてくれるものと確信しております。

最後になりましたが、三木理事長、八木校長をはじめ校内幹事の先生方には多大な御指導、御協力をいただき、感謝にたえません。また、同窓会を通じて、多くの友が出来ましたことは、私の大きな財産であり、喜びであります。どうも有難うございました。

白陵会 新執行部発足

平成二年六月二十三日、白陵高等学校白陵会館において、白陵会役員総会が開催され、黒川芳一会長（一期生）の任期満了による退任が承認され、新会長に沼田好道氏（三期生）が選任されました。新会長選任に伴い次のとおり白陵会理事メンバーの異動が行われました。

副会長　天野泰文氏（三期生）
総務委員長　名倉正明氏（二期生）
広報委員長　吉田達哉氏（一〇期生）
研修レクリエーション委員長
　湖中明憲氏（二期生）
会計監査　大崎章快氏（六期生）
同　町田直隆氏（一五期生）
新理事会計担当
　加藤雅宣氏（一〇期生）

が新たに選任されました。

その他の副会長外役員は留任しました。沼田新体制のもと新役員が白陵会執行部としてスタートをきりました。

白陵会 新執行部 プロフィール

会　長　沼田好道氏
昭和二十四年生　三期生
姫路市新在家中の町一七の一八
ヌマタ歯科医院院長

副会長　森本勝行氏
昭和二十二年生　一期生
姫路市西新在家二丁目八の一三
株式会社森本代表取締役

副会長　天野泰文氏
昭和二十四年生　三期生
姫路市御立七二七の三三九
天野法律会計事務所所長

副会長　上田喜裕氏
昭和二十七年生　六期生
姫路市飾磨区宮七四番地
ホンダ上田販売株式会社

総務委員長　名倉正明氏
昭和二十三年生　二期生
姫路市御立一二三六の一〇
姫路市役所勤務

広報委員長　吉田達哉氏
昭和三十一年生　一〇期生
姫路市今宿一七五九の一
　メゾン薬師山三〇二号
テーラー吉田経営

研修レクリエーション委員長
　湖中明憲氏
昭和二十三年生　二期生
加古川市平岡町一色町四一一
昭和住宅株式会社代表取締役

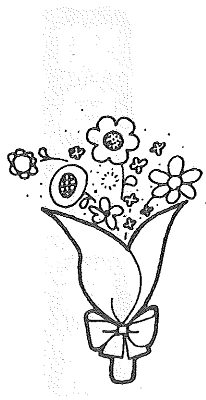
白陵会役員名簿

会長	沼田好道	3
副会長	森本勝行	1
〃	天野泰文	3
〃	上田喜裕	6
理事	川副義文	2
〃	湖中明憲	2
〃	名倉正明	2
〃	神吉裕資	3
〃	貞広始	9
〃	下村康夫	10
〃	吉田達哉	10
〃	奥野昌三	12
会計理事	加藤雅宣	10
会計監査	大崎章快	6
〃	町田直隆	15
常任幹事	伊藤達也	1
〃	正井和野	1
〃	鎌田芳寛	4
〃	森崎晴友	4
〃	池田公律	5
〃	三木啓司	16
〃	岡野清和	17
〃	秋田直樹	18
〃	牛尾英樹	19
〃	山内正嗣	20
〃	河合恵介	21
〃	中谷泰健	21
〃	新田智弘	22
〃	三木健史	23
〃	中里寛	23
〃	奥本光廣	24
〃	藤原省悟	24
〃	多根正明	25
校内幹事	芳木健憲	1
〃	大内義博	2
〃	長濱憲雄	3
〃	黒田洋	3
〃	原田正和	4
〃	福井孝昌	6
〃	小紫一貴	11
〃	宮崎陽太郎	11
〃	畔上昇	12
〃	山口透	12
〃	中村大吾	12
〃	久保博彦	14
〃	村上幸生	15
〃	西善弘	15

名簿発行予定

白陵会は、一九八七年に白陵会名簿を発行しましたが、すでに三年の歳月が過ぎ名簿に載っていない二二、二三、二四期生の卒業生が新たに加わりました。白陵会は本年度の白陵会総会事業の後、特別委員会として名簿発行委員会を設置して一九九二年完成を目指し名簿発行を予定しております。

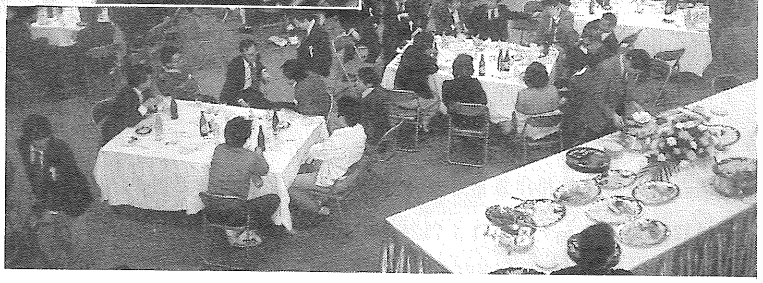
名簿発行委員会は、出来る限り正確な名簿作成を目標に作成作業を進める予定です。同窓会会員の皆様におかれましても、住所の変更等ありましたら現在の名簿最終頁にある異動通知票に変更欄を記載のうえ白陵会事務局宛御連絡下さい。また白陵会総会出欠の御返事の際も異動を記入の上返信下さるようお願いいたします。



11月11日開催

五年に一度の卒業生全体の同窓会とも言うべき「白陵会総会」が来る十一月十一日(日)に白陵高等学校白陵会館・体育館において開催されることになりました。前回総会（一九八五年十一月十日）は、多数の先生方をお招きし、サブロー・シローなどのアトラクションをまじえ楽しい一日を送りました。

今回も前回以上に喜んでいただけるよう早坂茂三氏の講演、ゲーム大会、恩師インタビュー、模擬店等盛りだくさんの企画を用意しております。卒業生の多数の方が欅並木の懐かしの母校に集い、恩師友人に再会し旧交を温め回顧談に花を咲かせていただきたいと思います。



◆ 前回総会懇親会風景

'90白陵会総会

★日時　平成二年十一月十一日(日)

★会場　白陵高等学校内
白陵会館・体育館

★会費　三、〇〇〇円

○受付開始　午前十時

○総会（白陵会館）
十一時より十一時三〇分

○講演会（白陵会館）
十一時三〇分より約一時間
講師　早坂茂三氏
演題　「これからの日本」

○懇親会（体育館）
十三時より十五時終了予定

※当日はできるだけ車はご遠慮下さい。

※出欠は九月十五日（土）までにご連絡下さい。

※会費は当日受付で頂きます。

白陵会総会

早坂茂三氏講演

昭和五年、北海道生まれ。早稲田大学政経学部卒。東京タイムズ社を経て、昭和三十七年、田中角栄大蔵大臣の秘書官となる。以後二十三年間、政務秘書として敏腕を振るう。昭和六十年、早坂事務所を設立。豊富な経験と深い人間観察を武器に、政治評論家として活躍中。

著書に『オヤジとわたし』『早坂茂三の田中角栄回想録』『政治家田中角栄』『駕籠に乗る人担ぐ人』

盛りだくさんの懇親会

- 豪華商品が当たるゲーム大会
- プロ司会者による、懐かしの恩師インタビュー
- 在校中は考えられない、体育館での模擬店（たこやき・そば等）etc.

出欠のご返事は、同封のハガキで九月十五日までにお知らせ下さい。

※欠席の方も、次回名簿作成資料と致しますので、ご住所をご記入の上、必ずご返信下さい。

前回の総会に出席して

十期生　三木哲持

何かの機会が無いと、なかなか母校へ行くことはないものです。まして、卒業して各分野で生活しておりますと生活空間が、それぞれ離れて違ってきます。そんな時に総会に出席して最も多感な時期の三年間ないし六年間、同じ釜の飯を食べたという共通空間を持った仲間や、お世話になった恩師と共に過ごせたことは、懐かしくもあり、又楽しいものでした。又、現在の自分の生活から忘れかけた自分のルーツがみえる様でおもしろいものでした。今回も五年に一回の機会ですので、毎回おなじみの顔ではなく、めずらしい顔とも共通空間を共有したいものだと楽しみにしております。

十五期生　町田直隆

前回初めて白陵総会に出席しましたが、学園道路を車で通りながら「卒業できて本当によかった」とあらためて思いました。次に白陵会館の前で先生になった同級生が受付をしており、時代も変わったと思いました。

総会が終わり懇親会になるとサブロー・シロー、大助・花子の漫才、ゲーム等があり、これに酒が加わり一気にリラックスしたムードとなり、久し振りの同級生、クラブの先輩、先生と話が弾み、あっという間に時がすぎ、解散の時間になりました。

苦しい時を共有した友達と話しはじめると、見栄も飾りも必要なく、次から次から話題が尽きず、知らぬ間に童心に帰り、とても有意義な一日が過ごせました。

白陵今昔物語(4)

平成二年六月

今回は、白陵の一期生OB、母校で教鞭をとっておられる芳木先生に、白陵の今と昔についてお話しをお伺いしました。

――先生は、白陵の生徒と先生という両方の立場を経験されていますので、その方面からお話しを聞かせていただきたいと思います。まず始めに、生徒の立場からですが、一期生として入学された当時の学校の様子はどうだったのでしょうか？

芳木　そうですね、当時は校舎と言える建物もなく、プレハブが二つ、三つあった位です。もちろん体育館や寮もなく、運動場も整備されていませんでした。

――当時というのは確か、昭和三十八年頃の事ですね。

芳木　そう、その頃ですね。体育の授業と言えば、石ころ拾いばかりでしたからね。

――生徒数は何名ぐらいだったのですか？

芳木　四クラス程で、さあ何名になりますか、確か卒業する時は、三クラスに減っていました。

――最初は高1と中1だけですが、教える先生方は何名おられたのですか？

芳木　十名強あたりじゃないでしょうか。途中でやめられる先生もありました。

――そう言えば、その様な事がありましたね。急におられなくなったりして…。

芳木　そうです。途中でプイとやめられて、昨日までやっていた授業が今日からないって事もありましたね。先生方の入れ替わりが激しかった様に記憶しています。

――では、当時の生徒はどうだったのでしょう？先生方のやめられる原因もそこにあるという様な事はなかったのですか！

芳木　今の生徒に比べれば、おもしろい生徒がいましたね。まともに勉強しなかった者もたくさんいて、授業も適当にやってましたからね。でも園長の時間は別でしたが…。

――という事は、生徒からみて、園長は非常にこわかったという事ですか？

芳木　ええ、園長は、かなりきびしくされました。園長に出会うと背筋がピーンと延びたものです。皆んなよくひっぱたかれました。

――芳木先生自身はどうだったのですか？とても真面目な生徒の様に思われるのですが…。

芳木　僕ですか？真面目というより、おとなしかったんでしょうね。目立ちませんでした…。

――では、今度は教師という立場から見て、当時の先生の印象をお聞きしたいのですが。

芳木　昔は、先生方がもっと自由にやられてたかも知れませんね。今の様に白陵の姿勢ができ上がっていませんので、進学面でもこれから作り上げていく段階ですから。当時は、先生方自身、暗中模索といった所ではないでしょうか。

――話しは少し脱線しますが、その進学という点について、これは極端な例かも知れませんが、進学の為だけにシステム化している組識体が塾だと思うのですが、現在の白陵もある意味では、そうではないのでしょうか。

芳木　う～ん、塾の様に極端でないにしろ、目的が進学にあるという点では、似ているかも知れませんが、でも、同じではないですね。そうでないと困りますし、それが白陵のこれからの課題でしょうね。

――話は、元にもどるのですが、当時の先生で印象に残る先生は…？

芳木　そうですね、数学の斎藤先生なんか哲学者タイプでね。他に生物の先生とか、前島先生…他にもユニークな先生や、変った先生もおられました。

――では、先程も話しに出ましたが、当時の園長について、教師の立場から見られて、どう思われるでしょうか。例えば、あの愛(？)のムチなどは…。

芳木　今振り返りますと、やんちゃ坊主も皆、生徒自身、園長を認めていたんですね。だから、どんなにたたかれても、卒業してから園長、園長と言っているのは、園長の人間性にあると思います。表面で叱っても、裏では最後まで面倒を見てましたから。その辺にも園長の信念があったんでしょうね。

――そういう園長に惹かれて、先生は母校で教鞭を執ろうと思われたのですか？

芳木 いえ、そんなにかっこうのいいものではないです。たまたま園長に白陵に来ないかと言われたのが、きっかけです。

――では、母校で教鞭を執る気持ちはどうでしたでしょうか。

芳木 最初は誰にでもある不安もありましたし、母校という事でプレッシャーもありました。でも反面気が楽な面もありましたね。教師になって間もない頃、園長に言われた言葉は、今でも忘れませんね。〝きびしい先生になれ！〟その言葉の意味が、なかなか理解できませんでした。

――園長の愛(？)のムチとか、そういう事もふまえてでしょうか。

芳木 ええ、最初は、(生徒として、たたかれた頃の反発心があったのかも知れませんが)確かに、たたくという事はけぎらいしていました。でも、それではダメだって思うようになってきたんです。

――では、やはりたたかないとだめなのでしょうか。

芳木 いえ、たたくというのは、生徒に緊張感を持たす為の一手段でもあるわけですが、それだけでは、生徒はついてきません。園長の本心も、本当にきびしくするという事にあったのかどうか疑問です。

――と言いますと。

芳木 本当は、園長には、進学だけでない他の人間形成をふまえた上での夢があったんでしょうね。それにしても、園長は、本当に何とも言い表しようのないところがありました。それが園長の魅力で、誰も真似のできないところじゃないですか。

――そうですね。誰もが卒業してから、よけいに園長の良さがわかるというのも、その辺にあるのでしょう。…で又、体罰の話になるのですが、昔と今では、どうして違ってきたのでしょうか。

芳木 ひとつは時代でしょう。又、昔は、進学の為もあったかも知れませんが、親もふまえて、しつけという面でスパルタを納得済みで白陵に来ていた風がありましたが、今はそうではないです。

――今は、ただ進学のみですか。

芳木 う～ん、ある意味で割り切って入ってきていますからね。

――昔は、勉強する者の方が少なかった(？)くらいですのに…(笑い)これも時代の流れでしょうか。

芳木 でも、本当言うと、こういう時代だからこそ、白陵精神を大事にしたいんですが。

――あの昔のバンカラ風の…

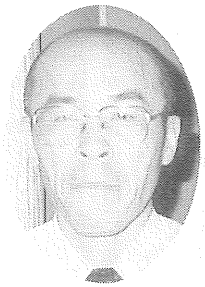
芳木 そう、あのバンカラ風がなくなったですね。クラブに入ったり、いろんな事をしていろいろな世界を見てほしいですね。園長もそうだと思いますが、究極の目的は、進学だけではないのですから。

――最後に、一期生として又、卒業OBの教師として、卒業生に一言お願いできますか。

芳木 そうですね。特に東大、京大卒業生などは、社会の上層部につくわけですから、だからこそ、白陵精神―人間性というのか、それを考えてもらって、社会で生かしてもらいたい…ですね。

――本当に、今日はいろいろとお話しを聞かせて頂き、ありがとうございました。

芳木健憲先生プロフィール――



昭和22年6月30日生
現住所　姫路市豊富町豊富一一三三
同志社大学　文学部文化学科国文学専攻卒
昭和46年4月より本校において教鞭をとる

食堂は今

本誌取材班

食欲ほど青春を物語るものはないのではなかろうか。タクアンだけでドンブリに二杯ほど平気で食べることが出来たし、脂身ばっかりの豚肉を事もなくたいらげていた。年中空腹を訴え、家の冷蔵庫を十分おきに覗き、その度に「物漁りのようなみっともないことをするな」と親に叱られた。このような欠食児童にとって白陵高校の食堂は青春そのものであった。昼食の時間が待ち切れず、一分でも早く授業が終わることをひたすら望み、三分でも授業がオーバーしようものならその先生を閻魔かエイズのように忌み嫌ったものである。

あの食堂のあの懐かし定食、うどん、そば、カレーが今どうなっているかというヨダレの出るような企画が持ち上がった。もちろん試食を条件としたものである。いの一番に志願し、定食を問わずあらゆるメニューを試食すると豪語した。取材班（といっても筆者とカメラマンの十回生のK君と二人だけである。同窓会はそんなに予算はない）は、初夏の通学路を食堂に向かって急行した。白陵高校に学生堂堂が出来たのは、昭和四十一年の高校二年の頃であった。当時には珍しい北欧風の建物で、ド田舎の阿弥陀町には不釣り合いであったが、これを大変気にいって自慢していた園長のアナクロニズムが今ではほほえましく思えて来る。今では相当古くなり樹木が生い茂る中に垣間見える食堂は、ストックホルムの郊外のチャペルのようだと言えばヨイショのしすぎかしら。

食堂への通路は相変わらず暗い。水道の水がチョロチョロ流れる食器の洗い場も昔どおりにあった。中の様子もバック・トゥ・ザ・フューチャーのようにタイムスリップした昔であった。大きな字でメニューが壁に貼ってあった。どうしようもなく当時のままである。定食二九〇円、カレー二五〇円、そば一六〇円、うどん一五〇円等々。学生の頃の定番であった定食とうどんを注文した。四一〇円也。K君はカレーとラーメンを頼んだ。カレーは少なめにしてくれと言った。若いのに情けない奴だ。定食は、エビとイモのテンプラ、ひじき、ミートボール、高野豆腐に何か巻いたもの、コンニャクに春雨のサラダにキャベツが添えてあり、水色のプラスチックの容器（覚えていますか？）に指定されたように順序よく並べてあった。今ではこういう定食はデパートの食堂でもお目にかからない。最近の大学の学食でもあるだろうか。おかずの量はそう多くないが見た目は確かに安い。当時は八〇円ぐらいだったろうか。おいしい安いで随分お世話になったものだ。

まず、と気合を入れてうどんを食べた。残念ながら舌は薄情にも昔の味を忘れている。こんなものだったのかと味覚に思い出も懐かしさもなかった。K君のラーメンを少し啜るとうどんのつゆと同じであったのでいかにも白陵らしいと理不尽な感動をした。定食の方に移った。テンプラは少しさめていた。カロリーが高いなあと思いながら食べるオジサンの食欲は何故か悲しい。ひじき、ミートボール等味を文字で書くのは難しい。二九〇円もって食堂に食べに行ってほしい。部外者でも割増なしの値段で食べることができる営業方針であると聞いている。ご飯に移った。少し柔らかい。コシヒカリでないことは確かであるが、その代わり物凄いご飯の量である。食べても食べても減らない感じがしてきた。一体全体誰がこんなに食うのだ！と初心を忘れて叫びそうになった。しかし横のK君がニヤニヤ笑っているように思えて、止むなくご飯を口一杯に放り込みうどんの汁で胃の中に流し込んで試食は終わることにした。他のメニューは「食堂は今PARTⅡ」の時に試食すればよい。過食で胃をこわして原稿が書けなくなってはと断腸の思いで諦めた。K君はラーメンがおいしいと言う。どうウマイのか適確に表現する能力を彼は持ち合わせていないので未だにウマイのかマズイのか分からない。PARTⅡの仕事がまた増えそうだ。

食堂のオバサン（どうして食堂のオバサンは、こうもどこでも小太りで人の善さそうなのでしょう）に聞くと、最近の生徒は、カレーとそばに人気があると言う。見てみると定食を食べているのは少ない。当時は定食が一番に売り切れ、そのために何が何でも食堂まで全力疾走したものだ。時代の流れだろうか。生徒はダイエット指向なのだろうか。何人かの坊主頭に聞いてみた。カレーとそばでおなかが一杯になると言った。現在の飽食の時代に何とつつましい返事だろうか。二十五年前の三期の我々と比べ随分白陵は上品になったものだ。それにしてもこの一番人気の品を注文したK君はやはり若かった。これ以上食べれないのでカウンターに並べてある他の食べ物をうらめしそうに見ながら取材班は食堂をあとにした。定食とうどんが胃の中で消化の順番を争い突き上げてくるゲップを繰り返しながら、過ぎ去った青春は食欲の面ではどうしようもなく偉大であったことを再認識して欅の並木道を通って帰路についたのでありました。

（文責　天野）

平成2年 大学入学試験合格者数

東大30、早・慶大58、国公立大医学部27

―― 東大県下第2位へ躍進 ――

国公立大学

大学名	63年	平成元年	2年
東京大	22	15	30
京都大	23	26	14
一橋大	1	2	
大阪大	20	19	16
北海道大	6	4	3
東北大	13	5	4
筑波大		1	1
名古屋大		3	1
九州大	5	3	2
神戸大	23	18	13
岡山大	4	1	8
広島大	11	1	1
防衛医大	5	7	6
京都府医大	3	2	3
大阪市大	8	4	3
その他	75	58	41
合格者数	219	169	146
(内医学部)	(39)	(21)	(27)
対卒業生国公立大合格率	126%	96%	84%

私立大学

大学名	63年	平成元年	2年
早稲田大	1	16	33
慶応大	2	15	25
上智大	1	1	1
中央大	1	7	4
東京理大	4	6	4
青山学院大		2	2
関西学院大	8	28	16
関西大	9	12	15
同志社大	0	6	14
立命館大	8	7	6
甲南大	4	3	3
大阪医大	2	1	2
関西医大	3		4
兵庫医大	2	3	3
大阪歯大	1	1	1
神戸女子薬大	1		2
その他	3	23	29
合格者計	100	131	164
(内医学部)	(1)	(6)	(18)

平成2年度 東大合格上位30校

'90年合格者数（前・後期合計）

順位	高校名	都道府県	人数	順位	人数'89
1	□開成	東京	155	1	167
2	□灘	兵庫	123	3	102
3	□桐蔭学園	神奈川	102	8	65
4	◎学芸大付属	東京	100	2	113
5	◎筑波大駒場	東京	95	6	75
6	□麻布	東京	88	4	94
7	□栄光学園	神奈川	67	10	62
8	□武蔵	東京	65	9	63
9	□ラ・サール	鹿児島	64	5	92
10	千葉・県立	千葉	62	12	53
11	□桐朋	東京	60	15	45
11	浦和・県立	埼玉	60	11	54
13	□駒場東邦	東京	57	19	36
14	◎筑波大付属	東京	56	7	66
15	□久留米大付	福岡	51	16	40
16	□東大寺学園	奈良	42	17	39
17	湘南	神奈川	41	21	34
18	□桜蔭	東京	40	12	53
19	□洛星	京都	39	28	26
19	□広島学院	広島	39	20	35
21	□愛光	愛媛	36	14	47
22	戸山	東京	34	23	31
23	□白陵	兵庫	30	47	15
24	□東海	愛知	29	34	21
25	□巣鴨	東京	28	17	39
26	東葛飾	千葉	26	29	24
26	千種	愛知	26	34	21
26	□甲陽学院	兵庫	26	26	28
29	土浦第一	茨城	25	34	21
30	◎お茶大付属	東京	24	29	24
30	西	東京	24	38	20
30	旭丘	愛知	24	41	18

（注）◎＝国立　□＝私立　無印は公立　（「週刊現代」より）

大学合格成績　大躍進!!

今春の白陵高校の大学合格成績は例年を大きく上回る大躍進を遂げました。その母校の学習指導については、各方面より高い注目を浴び、「週刊現代」に「東大合格者が昨年の15人から今年は30人と合格者〝倍増〟に成功した兵庫県の私立白陵の今年の卒業生は174人。30人の合格者のうち現役合格者は25人もいる。7人に一人が東大に現役合格しているのだ」と取り上げられ中安進路部長のインタビューも交え、その進路指導の秘策を掲載され、某有名進学塾も母校の状況を詳しく紹介しております。また全国各地からの学校見学の依頼も増加しているといわれており、母校の進学状況は今後増々躍進を果たし名実共に播磨の誇る有名進学校の地位を占めるようになっております。

白陵会ニュース

★福田元首相　来校

さる五月七日、元内閣総理大臣福田赳夫氏が、多忙なスケジュールをぬって白陵へ来校されました。これは一年半前の学園創立25周年記念式典に来賓としてお迎えする予定が、急病のため急拠、現外務大臣の中山太郎氏に変更になったため、生徒との約束を実行するとして今回の来校となったものです。「世界の中の日本」というテーマで全校生徒を前に約一時間ほど講演された後、三角公園内には「桜」を記念植樹して、学校を後にされました。終始にこやかな笑顔で、学園の環境や生徒のすがすがしい態度に好感をもたれたとのことでした。

★岡山白陵　※名門進学校と姉妹校提携

白陵の姉妹校、岡山白陵が、アメリカの名門進学校であるドワイト・イングルウッド高校と姉妹校提携を結ぶことになり、七月七日に同校を訪れた訪問団3名が、本部への表敬訪問として白陵へも立ち寄られました。イングルウッド高校は、シュルツ前国務長官や美人女優ブルック・シールズなどの卒業生を出しており、生活指導面でも厳しい学校として有名で、今回の提携も両校にとって有意義なものと期待されています。

★教員異動

昭和五十四年から勤務された長井龍月先生（英語科）がこの三月をもって退職されました。尚、同窓生（八期）でもあり、校内幹事としてご尽力頂きました。

投稿記事

（三期生　北岡武司）

四期生、高見修司氏は、昨年七月一日、新潟にて逝去された。以て衷心より冥福を祈る次第である。氏は、白陵剣道部最盛期の主将を務められ、卒業後、中央大学に進学、絵画に生涯を託す決心をして、大学を中退後、絵の道に邁進された。初期は油絵の具象画、後、水彩の心象画に転じ、アメリカの著名な画家にもその真価を認められていた。独自の画風を確立し、今後ニューヨークにも進出して、世界の画壇の一角に、確固たる地歩を固めようとしていたところであった。その矢先であってみれば、早すぎる逝去を惜しむ者は、ひとり白陵同窓生のみではないだろう。今、高見君の画集出版の気運が高まっている。何よりも、本質的に詩人であった。高見修司君の詩の風を、画集を通して是非とも味わっていただきたい、画集出版に協力することで、彼の本当の「命」、このうえなく美しい「魂」の、その息吹を分けてもらい、自身の勇気となそうと、心から呼び掛けたい。彼の絵、そこに溢れるポエジー、勇気を見るならば、それを独占しようと思う人はいないだろう。その作品群は、他者に伝えられるべき価値として、我々の心に軽やかな風を送り込んでくれる。ここに広く白陵会会員の皆様に、故高見修司君画集出版に向けた資金の協力を呼び掛けたい。尚、画集出版の作業は新潟と東京で目下、着々と進んでおり、本年十一月頃には世に出る見込みである。

郵便振替先　高見修司画集刊行準備会
新潟　九―一三四六六

白陵会　物故者

高見修司　4期生　平成元年7月
加藤　学　18期生　平成元年8月
田路好直　2期生　平成2年1月
水田陽子（旧性 下田）11期生　平成2年5月
田中輝仁　2期生　平成2年5月
沓掛紀一　旧職員　平成元年7月　S47～55在職　数学
山田利一　旧職員　平成2年3月　S42～59在職　英語

編集後記

白陵会は本年六月沼田新会長のもとで新たなスタートを開始しました。広報委員会も天野より吉田委員長にバトンタッチをしましたが、旧編集部が本誌面作成中のこともあって今回の「Alma Mater白陵」はそのまま旧委員会の手によって生まれました。発行が大幅におくれ季節の挨拶を全面的に書き直したり、印刷をお願いしている一期生の伊藤さんに迷惑のかけどうしでしたが、今後は若い吉田新体制のもとでさらにフレッシュでユニークな誌面づくりを期待しています。広報委員の伊藤・貞広・森崎・片山・加藤さん、長い間ありがとうございました。

白陵会収支計算書

平成元年4月1日～2年3月31日　（単位円）

収入 科目	金額	支出 科目	金額
会費	2,610,000	会議費	574,854
受取利息	6,871	慶弔費	108,834
名簿収入	9,000	記念品料	1,032,680
		通信運搬費	217,572
		印刷費	536,000
		雑費	99,033
前期繰越	6,940,260	後期繰越	7,325,712
合計	9,566,131	合計	9,566,131